

"BABY ALONE" JANE BIRKIN par SHOICHI KAJINO

* 意訳: "BABY ALONE" 梶野彰一の見たジェーン・バーキン

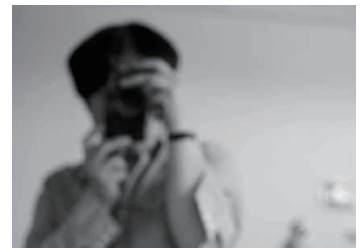


photo Shoichi kajino / 2011

パリ、東京。ジェーン・バーキンの影を追ってきた梶野彰一による写真展

introduction

梶野彰一にとってフランスへの憧憬を深めて以来のミューズであったというジェーン・バーキン。フォトグラファーとして、ジャーナリストとして、パリ、そして東京で彼女を追い、そのカメラとペンによって彼女の姿を伝えてきた。愛と敬意とともに丁寧に彼のフレームにおさめられたジェーンの姿はいつも優しい。



SHOICHI KAJINO PORTRAIT

概要

タイトル: "BABY ALONE" -JANE BIRKIN par SHOICHI KAJINO-

会場: ポーラミュージアム アネックス / 東京都中央区銀座1-7-7 ポーラ銀座ビル 3F

東京メトロ有楽町線「銀座一丁目駅」7番出口すぐ

会期: 2012年2月3日(金)～3月11日(日) 会期中無休

時間: 11:00 - 20:00 (入場は閉場の30分前まで)

入場料: 無料

主催: ポーラミュージアム アネックス

後援: フランス大使館、東京・横浜・日仏学院

企画制作: PARCO / 宣伝美術: groovisions / 会場構成: parastyle

お問合せ: 03-3563-5501 (ポーラミュージアム アネックス)

本件のお問合せ

株式会社ポーラ・オルビスホールディングス 広報・IR室

TEL 03-3563-5540 / FAX 03-3563-5543

<http://www.pola.co.jp/m-annex/>

Profile

* JANE BIRKIN / ジェーン・バーキン

イギリス生まれ。1966年ミケランジェロ・アントニオーニ監督の『欲望』で本格的に女優としてのキャリアをスタートする。作曲家ジョン・バリーとの離別を機に娘のケイト・バリーを連れ渡仏。パリでピエール・グランプラ監督の『スローガン』（1969）で主役に抜擢され、共演をきっかけにセルジュ・ゲンスブールと運命的な出会いを果たす。女優として活動するかたわら、セルジュとデュエットした『ジュ・テーム…』はそのエロティックな内容で世界的に波紋を呼び、二人名義のアルバムで歌手としてのキャリアをスタート。

3人のパートナーとの間に授かった、ケイト・バリー（写真家）、シャルロット・ゲンスブール（女優・歌手）、ルー・ドワイヨン（女優）の母である。また、飛行機の隣に乗り合わせたエルメスのジャン・ルイ・デュマ5代目当主が荷物のあふれ出しそうなジェーンのかごを目にしたことをきっかけに、エルメスのバッグ「バーキン」が生まれたというエピソードも有名である。

2011年の東日本大震災の直後、自らの病気をおしてまで単身で来日しチャリティ活動や被災者慰問などに尽力した彼女の姿は記憶に新しい。

* 梶野 彰一 / かじの しょういち

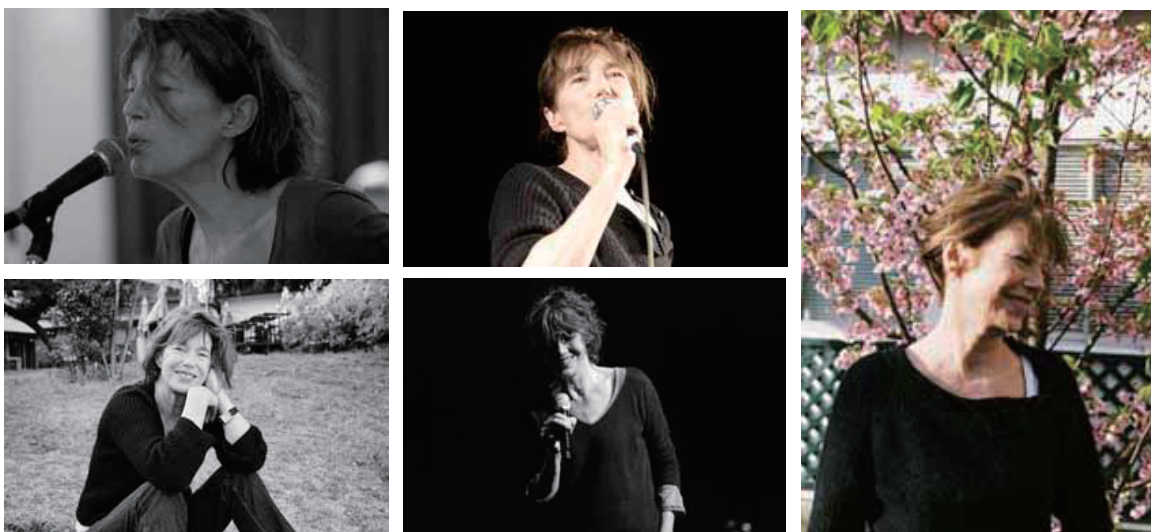
フォトグラファー、アートディレクター、ジャーナリストなどいくつかの肩書きで知られる梶野彰一であるが、実際のところは単にフレンチ・カルチャーの信奉者として知られているかもしれない。そのきっかけにはセルジュ・ゲンスブールの存在が大きくあったという。

1970年生まれ。10代の終わりにパリに魅せられて以降、パリと東京の往來を繰り返しながら、音楽やファッション、映画やアートのシーンと密に交流し、その写真と文章でパリのエスプリを伝えてきた。あるいは、むしろそのエスプリに溺れられてきた。かねてよりパリ、東京でジェーンの取材を重ねてきたが、2007年以降はそのカメラとともにステージを記録してきた。

新年を迎えた2012年1月、新たにジェーンを撮り下ろすため梶野彰一はパリに向かう。

www.lappareil-photo.com
<http://fatale.honeyee.com/blog/skajino>

プレス用素材（1ページ目の写真も含めて、印刷用の解像度の高いデータなどご用意しております）



* 2011年撮影（真ん中下段のみ2007年撮影）